

基本情報

時間割コード／Course Code 138104 開講区分(開講学期)／Semester 1 学期

曜日・時間／Day and Period 水 6

開講科目名／Course Name (Japanese) 実践グローバルリーダーシップ

開講科目名(英)／Course Name Practicing global leadership

単位数／Credits 2 対象所属／Eligibility 年次／Student Year 1,2 年

担当教員／Instructor 野村美明、上斗米明、神余隆博 開講言語／Language of the Course : 日本語

サブタイトル／Subtitle 授業運営を通してリーダーシップを学ぶ

セミナー番号／Seminar Number 303

履修対象／Eligibility 全学部 開講時期／Schedule セメスター／Semester I

講義室／Room

講義題目/Course Name

(2015 年度は空欄)

授業の目的と概要/Course Objective

(目的)

この授業は、学生のグローバルなリーダーシップの習得と向上を目的としています。

リーダーシップは、リーダーとメンバーが、特定の目的の実現に向けて、相互に影響を与えながら協力して行動していくことです。

この授業では、効果的なリーダーシップ学習の実現のために、受講生が「ファシリテーター」「機材係」などの様々な役割をもって授業運営に携わります。

教室というマイクロコスモスのなかで、常に社会や地球というグローバルな視点を持ちながら、主体的に授業の運営に携わることによって、リーダーシップについて考え、行動する態度を養います。

(概要)

①様々な分野でグローバルな視点を持ってリーダーシップを発揮されてきた方々を講師にお招きし、哲学・経験を語っていただきます。

②双方向的な対話と振り返りを通して、現代人が直面している問題とその解決のためのリーダーシップについて考察する機会を持ちます。

③受講者間の相互理解と集中的な練習のために、集中講義として合宿が行われます。(受講生は原則として参加してください)

(授業形態)

授業時間は原則として水曜の 18:00~20:00 とし、練習、実践、集中講義(合宿)分の回数を含めて、全 90 分×15 コマ分(1,350 時間)以上の講義を集中的に行いますので、7 月初頭には終了する予定です。ゲストの講話とそれに基づく質問、ディスカッション、振り返りをできるだけその日に集中して学習効果を高めるためです。下記授業計画に基づく詳細な講義日程を、KOAN 等に掲示します。

対話型、実践型授業のため、受講者数を 25 人程度とします。
毎回の授業の最後に、振り返りシートを記載します。

(合宿について)

日程： 平成 28 年 5 月 14 日 (土) ~15 日 (日) に実施
場所： 株式会社パソナグループ様研修施設 (兵庫県淡路島)
参加費・交通費： 無料

〈外部講師〉

山中伸一 (前文科事務次官)
小笠原敬承斎 (小笠原流礼法宗家)
南部靖之 (株式会社パソナグループ代表取締役 グループ代表)
長島徹 (帝人相談役)
鈴木みゆき (シスコシステムズ代表執行役社長)

〈受講生の感想〉

・
・積極的に他の人に仕事を分担してもらったこと、授業全体に気を配る余裕を持てるようになった。
また、合宿係をしたときに、担当者として常にスケジュールのこと等、全体に気を配る必要があったので、全体に気を配るとはどういうことかを学ぶことができた。(法学部 3 年)
南部代表も青木社長も、教室内を動き回りながら語りかけるように話して下さいました。受講生は数十名いたにもかかわらず、数人で対話しているような印象を受けました。(法学研究科前期課程 1 年)

※昨年度の講義日程は以下の URL にて閲覧可能です。

<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/kougi.html>

学習目標 / Learning Goals

- ①授業企画・運営に携わることによって、実践的なリーダーシップを習得し、向上させることができます。
- ②様々な分野でリーダーシップを発揮されてきた方々の話を聴くことにより、「リーダーシップとは何か」を具体的に把握できるようになります。

履修条件・受講条件 / Requirement / Prerequisite

(受講理由書)

シラバスを熟読して、なぜこの授業を受講したいかを記載した受講理由書をメールで提出してください。提出内容は A4 用紙一枚以内(Word ポイント 11)とし、ファイルのヘッダーに提出日 氏名 学番 メールアドレスを表記すること。提出は早ければ早いほど評価しますが、4 月末日が最終締め切りです。

メールは<glp@osipp.osaka-u.ac.jp>宛、必ず表題に「2016 実践グローバルリーダーシップ(受講者名)」を表記すること。

特記事項／Special Note

特記事項／Special Note

この授業はグローバルリーダーシップ・プログラム（GLP）の一部です。GLP で開講する科目を続けて受講することで、リーダーシップをよりよく理解し、身につけることができます。2 学期水曜 6 限の「リーダーシップを考える」は、この授業で学んだ考え方やスキルをより深く学ぶものです。また、2 学期木曜 4 限の「経営者と学ぶリーダーシップ」では、ビジネスにおけるリーダーシップを学びます。

授業計画／Class Plan

第 1 回 オリエンテーション

【内容】アイスブレイキング／グループ分け／リーダーシップとはアクションの集合であることとアクションは練習で身につくことを学ぶ。

第 2 回 授業運営スキル研修

【内容】授業運営のための行動をスムーズに行うためのスキルを、ファシリテーション、機器操作、ホワイトボード、マイク回しなどの役割に即して学ぶ。自己評価シート配布。

第 3 回 模擬授業

【内容】実際に担当教員が外部講師役をつとめて模擬授業を行い、授業運営の練習をする。自己評価シート提出。

第 4 回 集中講義の準備

【内容】合宿の計画を立てることを通じてファシリテーションと合意形成の練習を行う。

第 5 回 講師 1 講義

【内容】講師 1 の 40 分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第 6 回 講師 2 講義

【内容】講師 2 の 40 分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第 7 回 振り返りと準備

【内容】前回授業の振り返りを行い、次回の準備を行う。自己評価シート 2 ・相互評価シート 1 配布。

第 8 回 講師 3 講義

【内容】講師 3 の 40 分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。自己評価シート 2 ・相互評価シート 1 提出。

第 9 回 中間振り返りと授業計画

【内容】今までの授業の振り返りを行い、次回の準備を行う。第 13 回授業の内容と計画を話し合う。

第 10 回 講師 4 講義

【内容】講師 4 の 40 分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第 11 回 振り返り、準備、決定

【内容】前回授業の振り返りを行い、次回の準備を行う。第 13 回授業の運営方法を決定する。

第 12 回 講師 5 講義

【内容】講師 5 の 40 分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。第 13 回授業の最終打ち合わせをする。

第 13 回 授業を創る

【内容】受講生が創った授業の実施。最終プレゼンの運営準備。

第14回 リーダーシッププレゼン

【内容】受講生が自らのリーダーシップについてプレゼンをし、ディスカッションする。[自己評価シート3・相互評価シート2配布。](#)

第15回 最終授業

【内容】受講生が全授業を振り返るプレゼンをし、授業の成果を共有する。[自己評価シート3・相互評価シート2提出。](#)

授業形態/Type of Class 講義科目 (一部集中)

授業外における学習/Independent Study Outside of Class

学習効果を高めるため、グループによる事前の準備、事後の反省と受講者による予習が求められます。

この授業の発展形として、授業創造と合意形成に重点をおいた「リーダーシップを考える」が開講されます。さらなる発展を目指してください。

教科書・教材/Textbooks

第1回授業で、「GLP 共通テキスト」を配布します。

参考文献/Reference

以下の他は、講義中に指示します。

野村美明ブログ <http://nomurakn.blogspot.jp/> =過去の授業の教材や参考資料を掲載しています。「リーダーシップ」で検索してみてください。

マーティ・リンスキー,ロナルド・A・ハイフェッツ/竹中平蔵訳『最前線のリーダーシップ』(ファーストプレス 2007年)(原著 Ronald A.Heifetz "Leadership on the Line"(Harvard Business School Press, 2002)=共通テキストが引用している本です。

『リーダー・パワー』ジョセフ・S・ナイ (日本経済新聞出版社 2008年)(原著 Joseph S. Nye, Jr., The Powers to Lead, Oxford, 2008)=共通テキストが引用している本です。

シャロン・ダロツ・パークス/中瀬英樹訳『リーダーシップは教えられる』(ランダムハウス講談社 2007年)(原著 Sharon Daloz Parks, Leadership Can Be Taught, Harvard Business School Press, 2005).

平田オリザ・蓮行『コミュニケーション力を引き出す』PHP 研究所 (2009/8/18)

成績評価/Grading Policy

①受講理由書, ②平常点 (行動の適切さ+発言内容+相互評価), ③学期末レポートで総合的に評価します。

- ・受講理由書の早期提出は高く評価しますが、最終締め切りは4月末日です。
- ・受講理由書と学期末レポート(総合振り返り)の2つを提出することによって、受講前後で自分自身にどのような変化が生じたのかを実感できます。
- ・無断欠席した者は評価の対象としません。無断で遅刻・早退した場合も同様とします。

オフィスアワー/Office Hour

事前の連絡があればいつでも歓迎する。

コメント/Other Remarks

授業目的に共感し、対話型授業と協働作業に積極的に参加する学生を望みます。